

# 軽種馬生産技術総合研修センター

## マンスリー レポート11

軽種馬生産技術総合研修センター  
Center for Equine Breeding Technology

### 米国ケンタッキー見聞記・パートV

世界有数の軽種馬生産地であるケンタッキー州レキシントンには、ウマ医療の先端技術を駆使して、患馬の治療に対応する大規模なウマの総合病院が、いくつか存在する。シリーズ5回目の今回からは、その中の一つ、“Rood & Riddle”ウマ診療所で見えた繁殖牝馬や子馬の装蹄療法の実態を紹介する。

### Rood & Riddle Equine Hospital Podiatry Center 編

まずは施設とスタッフの概要を紹介する。

#### ・Rood & Riddle Equine Hospital の概要

獣医師57名を抱えるというが、スタッフの陣容は時期によって異なるので、その全容は把握できなかった。施設は3つの手術室、MRI、CTスキャン、トレッドミルなどを備え、入院用には9棟の厩舎に140馬房があり、春は馬房が全て埋まるという。その施設内の一画に蹄病治療専門のPodiatry Centerがある。

#### ・Podiatry Center 設立の経緯

蹄病治療の責任者Dr. Scott E. Morrisonは、私営の装蹄学校(Eastern School of Farriery)で装蹄理論と実技を学んだ後、州立の獣医大学(Virginia-Maryland Regional College of Veterinary Medicine)を卒業し、Rood & Riddleでインターン生活を送り、インターン終了後、



Rood & Riddle Equine Hospital 全景  
丸で囲んだ所がPodiatry Center

獣医師かつ装蹄師であるDr. Reddenに6ヵ月間師事して装蹄治療に関するノウハウを身に付け、2001年Rood & Riddleに戻り、Podiatry Centerを設立した。

#### ・Podiatry Centerのスタッフ

獣医師：Scott E. Morrison, DVM(センター所長)他3名

装蹄師：2名

蹄鉄工務員：1名(蹄鉄製造の専門家。装蹄はしない)

テクニシャン：女性1人

事務員：女性1人

研修生：2名

#### ・業務内容

基本的に予約制で、月・水・金曜日は、Podiatry Centerにおいて肢蹄に関する治療や装蹄療法を実施し、火・木曜日は牧場への往診治療である。種牡馬・繁殖牝馬・子馬・育成馬・競走馬やサラブレッドからショーホースまで、全ての馬に対応している。



研修中の若い獣医師に、造蹄技術を指導するセンターの装蹄職員



写真は、蹄関節の細菌感染のために入院治療している馬で、関節包の洗浄をしているところである。洗浄後に抗生剤注射をDr. Morrison自ら行っていた。このように肢蹄に関する獣医治療から装蹄療法まで全てをこなしており、トライアンドエラーの精神で対処し、現状に甘んじないハングリ一な姿勢を感じた。